

名大の時間

私が私であること

れて大学生になった。数年前の自分からは想像もできない状況にいま私はいる。そしてこの生活はもう2か月を過ぎようとしている。この2か月は瞬間に過ぎ去っていった。

入学式前、私は大學生生活に向けての準備に追われていた。新しい環境で新しいことを始めるという

のは、何度経験したって慣れることはない。いつだってうまく

くいったことなんてないからだ。そんなことばかり考えていた。

最初が肝心だとよく言うが、私はいつもその肝心な最初でつまずいてきた。だから、今年こそはちゃんとうまくやろうと思いつけていた。もう大學生になっていた。

学生でいられるのもあと4年。きっと長いようで短い4年間になるだろう。だ

からこそ、後悔のない4年間にしたかった。勉強もサークル活動も友人関係だつてなに一つとして妥協したくなかった。

そのためには自身を変えなければならぬ。けど、人間はそう簡単には変われない。どうすればいいかも分からず、自分の中で、ただひたすら不安や焦りが増えていく一方だった。

入学式から約2週

間が経過した頃、私は気づいたら仲のいい友人たちに囲まれて楽しい大学生活を送っていた。いつ、どのタイミングで仲良くなったか正直曖昧だ。けど、いつの間にか一緒にいることが当たり前になっていった。

それがたまたま嬉しかった。私はあることに気がついた。別に無理に変わろうとしなくてもいいんだ、と。今の自分を受け入れてくれる人がここにはいる。

今まで通りの私でいい、そう心に決め

た瞬間だった。

それからというものの、個性豊かな友人にも楽しく通って、人生初のアルバイトにも挑戦している。今までにないくらい充実した日々を送っている。

しかし、この先き



っと高い壁に打ちのめされることだってあるだろう。でも、そんな困難でさえも今の私なら乗り越えられる気がする。ある意味、私は変わることでできたのかもしれない。

社会福祉学科1年

飯田さえ

2024年4月。

18歳の私は、名寄市立大学に入学し、晴